

令和2年9月4日

## 京口門だより NO.83

9月の声を聞いても日中は30℃台の暑さがつづいています。しかし朝晩は涼しい風を感じる時もあり、県北や高原では秋の花のたよりもききます。もう少しで爽やかな秋の日が訪れるのではないかとと思いますが、どうでしょう。

「水呑んであとに秋しる咳一つ」(杉風)

つい先日は安倍首相が体調不良のため辞職されるというニュースに驚きました。しかもその病気は潰瘍性大腸炎の悪化ということのようです。潰瘍性大腸炎は治りにくい炎症性の腸の病気の一つで、ほかにクローン病という似たような病気があります。潰瘍性大腸炎は主に大腸に炎症をおこす病気で、慢性下痢、血便、粘血便、腹痛などをきたし、大腸全体あるいは左側ないし右側の大腸、または直腸のみに生じるような大腸炎です。一方、クローン病はむかし限局性回腸炎とよばれたこともあり、大腸だけでなく小腸にも炎症をきたす病気です。これも腹痛、下痢、発熱、体重減少など発症するとともに、腸管癒着や肛門周囲膿瘍も起こす治りにくい大小腸の病気です。二つの炎症性腸疾患は大腸に病気があるのか、あるいは大腸から小腸まで病気が及ぶのかで違いがあります。今日色々な治療法が選べますが、潰瘍性大腸炎では軽症から慢性型、治癒と再

発を繰り返すタイプがあり、難病の一つになっています。クローン病は小腸にも病気がおよびますので、栄養不良となりやすく、口から液体状の栄養物をとる治療法がとられます。また多くの薬物も用いられたりします。いずれもなかなか治りにくい病気であって、とくに病気の発症は潰瘍性大腸炎では20歳台、クローン病では10歳台からと若い世代からおこるので、長く療養に励んでおられる方が多いです。その原因は分らないことも多いのですが、免疫系の異常や腸内細菌叢の異常が推測されているようです。

私たちの漢方治療でもこのような炎症性腸疾患に対応することがあります。潰瘍性大腸炎では初期や直腸に限るような状態で、腹痛や粘血便の症状に、炎症を治め下痢や出血を治す漢方薬を用いて、早期に治っていった方もおられます。だが慢性化したり、症状の再燃する方はなかなか治療が難しい面もありますが、現代医療と漢方治療の併用で、良い経過を得られる方もおられます。クローン病も治療は簡単ではありませんが、漢方治療の併用で長く良い状態を続けられる方もありますし、肛門周囲膿瘍には漢方薬が効果的な場合があります。

